

「人は宇宙の縮図」

(昭和四十年 七月発行)

人の肉體は神靈元子の御力で構成されているのである。そして肉體は心の機である。感ずる心の機で、宇宙一切の萬物萬生の精神を心にきわめる働きをする。この故に人の體は宇宙の縮図であるというのである。換言すれば人間は宇宙大精神の継承者、宇宙本体の継承者として尊嚴な存在である。神の大精神と人の小精神との結びによって、目に見えない微細な処に微細な働きがある。人の體は神が完全無欠に造られたものである。この故に人はまた神なのである。この真理を自覚すれば、この五尺の體に宇宙を精神的にきわめることが出来るのであって、これを宇宙一呑と表現するのである。

人間自らが神であるという自覚は修行によって開發される。修行によって心の御祖を洞觀し、宇宙萬物を觀分ける力が與えられるのである。そしてまた此の世そのままが神の世なのである。しかるに神の世でありながら人は精神的に心の御祖を求めず、精神的の基礎もなく、個人知識の體的學問で物事を推し量り、知識で進みつつあることは遺憾この上もない。精神的の働きが乏しい結果、日々に私慾の争いで明け暮れている浅ましい人間に顛落しているのである。この世を本然の神の世とするには、宇宙の真理、即ち神の御力を人間に授けるよりほかはない。これによって、神の御意思そのままの世となり、人間は正道を歩み、自然に平和の世となり、幸福の道を歩むことが出来るのである。人は神の道を歩むならば、邪道と迷信に陥ることはなく、また真理の道で萬物を照らすならば理窟はいらず、理論はいらず、明らかにして、清らかな世界が訪れるのである。

宇宙の神の御意思を理解するために精神的の道を教えるのが宗教である。